

一 般 質 問 通 告 書

令和 8 年 2 月 23 日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 4 番 清水 大粋

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { ①. 全項目一括質問一括答弁
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1)	攻めを意識したふるさと納税施策の拡充と特産物品の広報戦略 発 言 事 項 について
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>先般示された長期財政計画では特に財政調整基金残高の減少が見込まれ、施設再編・廃止等の行財政改革による守りの経営が続く見通しです。一方、ふるさと納税は毎年約6億円強でほぼ横ばいです。今後、環境センター建設等の大規模施策が予定され財政圧迫が生じることは相当程度見込まれ、政策的な予算が縮小していく可能性が高いと考えます。そこで、まだ政策的な予算が弾力的に組める今のうちに、ふるさと納税施策や特産物品の広報施策への投資による攻めの施策を通じて政策的な予算財源を確保していくべきと考えることから、以下の通り質問します。</p> <p>1. 商工観光部・農林水産部による広報活動の展開</p> <p>政策部への聞き取りによれば、ふるさと納税の経費率は49.99%（上限50%）に達し、うち広報費は0.3%にとどまっており、広報活動をより広く展開することは制度の枠組み上からして極めて困難な状況です。</p> <p>しかし、特産物品の広報は政策部だけの問題ではありません。特産物品の広報活動を展開することは商工観光部・農林水産部でも担え、ふるさと納税を前面に出さなければ当該広報費の範囲外である上、特産物品を広報することで市内経済が潤い地域の活性化に繋がります。</p>	

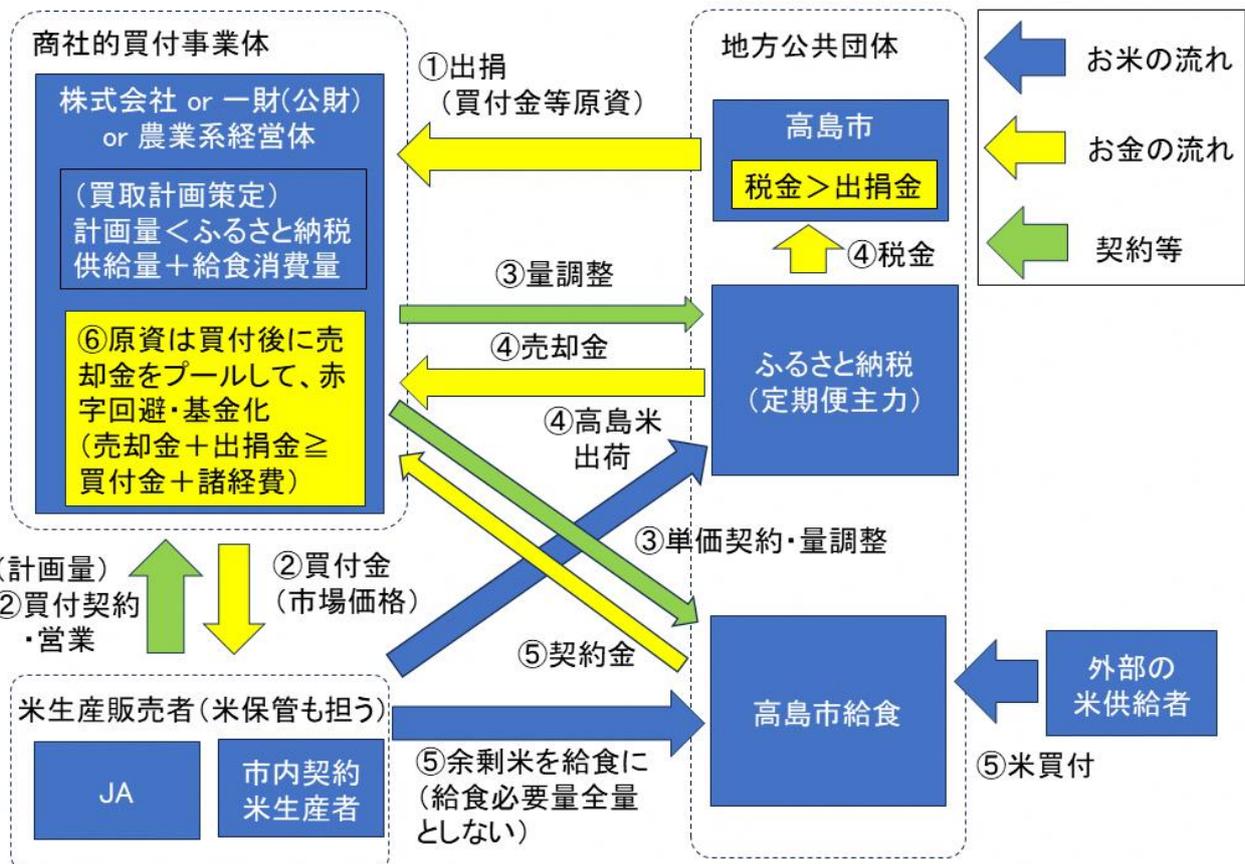
寄付額については、内訳を率で示すと、近江牛が73%である一方、うなぎ・湖魚9%、とんちゃんなどの食料品4.7%、米2.2%、果物・野菜0.48%であり、名産品である近江牛がよく選ばれている一方、特産物品の湖魚や米、果物・野菜の割合は低い状況にあります。米・野菜などは在庫抱え不安でふるさと納税に出荷されにくい部分もあると思われませんが、知名度が低いこともまたその要因の一つなのではないでしょうか。したがって、

(1) 特産物品の広報活動を商工観光部・農林水産部で広く展開していくことは地域経済を潤し、結果的にふるさと納税の寄付額への反映も期待できると考えますが見解を問います。

(2) 広報戦略やふるさと納税拡大施策を考えるにあたっては、主として政策部・商工観光部・農林水産部の3部が同じテーブルで協議できる会議を庁内に設置すべきではありませんか。

2. 米の安定的なふるさと納税返礼品確保施策

米は前述のとおり2.2%の寄付額で生産規模に比して寄付額構成比が低い一方、昨年秋には米の食味に関するコンテスト「米1グランプリ」が開かれるなど、市内の活動は活発化の兆しも見えており、生産規模も大きく、米は寄付額拡大の主力商品になりえる条件は整いつつあると考えます。これを踏まえ、本市で展開できうる事業例を以下の図のとおり示します。



この図は、寄付額54億円強（令和6年度）の茨城県境町で行われている町内生産米買取・返礼品調達事業を参考に、米生産販売者（以下、「生産者」）に営業し買付契約を行い生産者の所得安定化を図りつつふるさと納税へ米を安定的・集約的に供給し、学校給食に余剰分回すことで在庫抱え（古米化）を回避しつつ学校給食に高島米を供給する一つのルートとする理念のもとで考案した事業です。本事業は、市が出捐する事業体が営業を通じて米を買い付け、ふるさと納税に優先供給し、余剰分は学校給食に回す仕組みで、売却益は基金化し翌年度事業に充てる事業です。小規模実証事業として始め効果検証後に拡大する段階導入が現実的ですが、保管施設等を持たず安定した事業の中で生産者へ返礼品調達の営業をかける形態がとれる点がメリットで、学校給食への寄与及び米の既存流通を補完する事業である点で独自販路を多く持つ生産者の理解も得られやすいと考えます。環境こだわり農産物の米や、食味値の高い米などにインセンティブを設け、仕分けてふるさと納税に流通させるのも一つの手です。

地方自治法等との法的整理や既存流通との調整を前提とした制度設計が必要であることは承知の上で、この例のように、ふるさと納税に対し米を安定的に調達できる仕組み作りを検討すべきではありませんか。

3. 米の背景の明示とここ滋賀の活用

どのような特産物品をふるさと納税に出すにせよ、どこに特色があるのか、物語性としてどのような背景があるのかは明確にすべきです。

米については、琵琶湖の水の約3分の1を占める高島市の水量、水や空気のきれいさ（環境の良さ）、環境配慮への取り組み、それに伴う食の安心への取り組みなどは、背景をうまく組み合わせれば物語が作れます。また、その物語と米の品質等が都心部等でどの程度の訴求力があるのかは知っておかなければなりません。そこで、例えば県の情報発信拠点「ここ滋賀」に、画像付きで背景や物語を説明するパネルを用意し米を出品することは一つの手段になると考えます。

よって、協力事業者を募り、米生産の背景から物語を作り、ここ滋賀等のアンテナショップに出品し、環境こだわり・食味等の要素がどの程度価格反映性・訴求力につながるのか、定量データの取得に向けて活動してはどうでしょうか。